



Page	Contents	Date
2	The 37th Global Environmental Forum: The Paris Agreement on Climate Change and Energy Transitions in China and Japan	Oct 24, 2020
3	38th Global Environmental Forum Presentation: “Interdisciplinary Development in Studies on Frogs, Snakes, and Turtles”	Jan 30, 2021
3-4	Activity Report on Environmental Management Seminar B (under COVID-19 situation)	Mar, 2021
5	Report on the Internship Program	Mar, 2021
5-6	ELCAS Report: SDGs learned and deepened online with high school students	Mar 22, 2021
6-7	The 39th Global Environmental Forum: Green infrastructure and living landscape of Kyoto's waterscape	May 29, 2021
7-8	The 40th Global Environmental Forum: Discussing the Nature of Grassroots International Cooperation - Examples from Africa and the Pacific	Nov 21, 2021
8-10	Awards Given to GSGES Members	n.d.

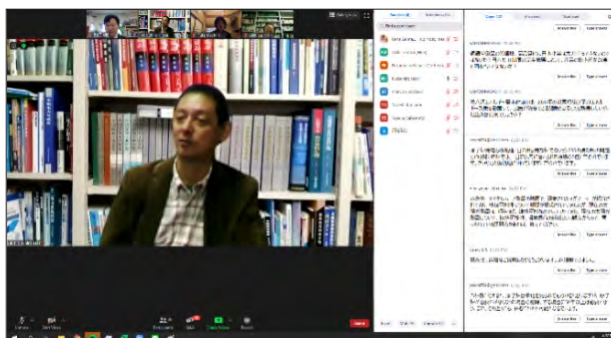
The 37th Global Environmental Forum: The Paris Agreement on Climate Change and Energy Transitions in China and Japan (October 24, 2020)

By Akihisa Mori, Associate Professor, GSGES

On Oct 24, 2020, GSGES hosted the 37th Global Environmental Forum entitled “The Paris Agreement on Climate Change and Energy Transitions in China and Japan.” Focusing on energy implications of global climate agreements, speakers addressed recent developments and the deployment of solar photovoltaic technology by Chinese companies and its impacts on energy transitions in China and Japan.

地球環境学堂は、2020年10月24日、第37回地球環境フォーラム『気候変動防止協定と日中のエネルギー転換』を、オンラインにて開催しました。フォーラムへの参加人数は53名でした。

国際的な気候変動防止協定であるパリ協定が締結されて以降、先進国も途上国も温室効果ガスの排出抑制のための取り組みを加速させてきています。特に中国は風力発電機や太陽電池の生産を国産化し、大量生産して低価格で供給することで、気候変動政策を進める国々でのエネルギー転換を促しています。その反面、中国企業の低価格での大量供給は、輸入国では風力発電機や太陽電池の生産を行う企業を駆逐し、その国の中国依存度を高めることになりかねません。この懸念が高まるほど、低炭素排出に向けたエネルギー転換への原動力が失われることになります。



Global Environmental Forum online

そこで本フォーラムでは、科研費による研究プロジェクトで共同研究を行っている3名の研究者から、パリ協定以降の各国の温室効果ガスの排出抑制のための取り組みに中国が及ぼしている影響に関する最新の研究成果を講演頂き、議論を行いました。

森 晶寿・京都大学大学院地球環境学堂准教授は、パリ協定以降の日本と中国のエネルギー政策及びエネルギー構造転換を概観し、なぜ中国ではエネルギー政策と構造転換が共進化し、日本ではできなかったのかに関する研究の知見を共有しました。

堀井伸浩・九州大学経済学研究院准教授は、中国太陽電池企業はなぜ世界的な競争優位を獲得し、世界の生産の過半数を占めるに至ったのかに関する最新の研究の成果を共有しました。

服部 崇・京都大学経済研究所教授は、中国太陽電池企業による輸出が日本の同業者に及ぼした影響を概観した上で、日本の同業者の事業戦略及び日本国のエネルギー政策に及ぼした影響に関する最新の研究結果を共有しました。



Global Environmental Forum online

38th Global Environmental Forum Presentation: “Interdisciplinary Development in Studies on Frogs, Snakes, and Turtles”

(January 30, 2021)

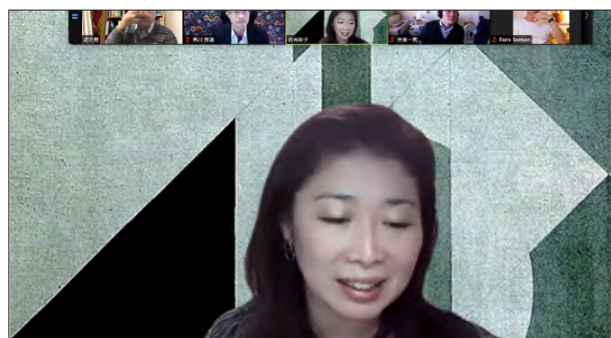
By Kanto Nishikawa, Associate Professor, GSGES

The 38th Global Environmental Forum was held on January 30, 2021, entitled “Interdisciplinary development in studies on frogs, snakes, and turtles”. The forum was attended by a total of 140 participants who attended online.

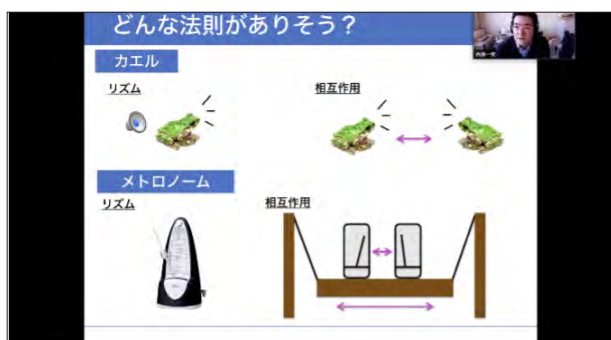
A total of three lectures were given, by Dr. Ikkyu Aihara (Associate Professor, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba), Dr. Ayako Iwatani (Associate Professor, Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University), and Dr. Tsutomu Hikida (Emeritus Professor, Kyoto University). First, Dr. Aihara introduced a series of his studies on frog choruses and behaviors, especially focused on autonomous motion controls of frogs. He took an interdisciplinary approach in these studies including informatics and biology. Second, Dr. Iwatani showed her comprehensive work on traditional Indian culture of snake shows, which have undergone significant transformations in method and style recently. She expressed great concern about the recent dissociation between wild animals and humans induced by wildlife

conservation acts. Lastly, Dr. Hikida gave some examples of interdisciplinary research on estimating the original source of introduced turtles to Japan. He clearly indicated that not only biology but also social science approaches can contribute to such research.

After the lectures, I, as the organizer, gave a summary of all three lectures in the context of the interdisciplinarity, and moderated the group discussion, which included a Q&A session. Many questions were addressed and participants and audience actively exchanged knowledge and experiences in this session.



Online presentation at Global Environmental Forum



Online presentation at Global Environmental Forum



Online presentation at Global Environmental Forum

Activity Report on Environmental Management Seminar B (under COVID-19 situation)

(March, 2021)

By Shota Sakaguchi, Assistant Professor, GSGES

The field study took place in mid-September 2020 as part of the environmental management seminar B, aiming to have master's course students learn about ecosystems and landscapes, as well as practice field investigation methods. This year, the spread of COVID-19 did not allow us to hold the training camp in the Tango Region. Yet, all field surveys on the topics of the river, soil, biodiversity, forest, atmosphere, and local community were carried out successfully in the Kyoto City region.

修士課程の学生の皆さんがフィールド調査手法を学び、地域生態系・景観に関する理解を深めることを目指す環境マネジメントセミナーBを2020年度も開講しました。新型コロナウイルスの感染が拡大する中での開講という異例の事態に見舞われたため、前年度までのように丹後半島の自然の中で合宿形式で実施することは叶いませんでしたが、コースごと

に感染予防に工夫をこらして頂いたおかげでトラブルなく実施できましたので、ここでご報告させていただきます。

年度が始まった4月当初、本セミナーは6月半ばに予定されていましたが、しかしウイルス感染拡大により実習の実施に関して不確実性が高まり、また入国制限のため渡日できない留学生が複数出たために、時期を9月に延期することになりました。9月に入り京都府での感染第2波も落ち着きを見せたので、セミナーを構成するコースごとに少人数の班に分かれて実習を行うことになりました。藤井先生・田中先生・原田先生のご指導による川の実習は出町柳周辺の鴨川で、舟川先生・真常先生・渡邊先生・柴田先生による土壌の実習と柴田先生・貫名先生による森林の実習は京都大学上賀茂試験地で行われました。



Environmental Management Seminar B under COVID-19



Environmental Management Seminar B under COVID-19



Environmental Management Seminar B under COVID-19



Environmental Management Seminar B under COVID-19

地域の実習は、西前先生・深町先生・鬼塚先生が学生をご引率されて京都市大原で実施して頂きました。大気の実習（梶井先生・坂本先生）の一部と生物多様性の実習（瀬戸口先生・西川先生・阪口）は、もともとは同試験地で行う予定でしたが、台風の接近によって急遽実施場所を吉田南キャンパスに変更して実習を行いました。9月は初秋とはいえ日中の気温は30度を越えておりましたので、気温の低い早朝から実習を開始したほか、参加者に

は飲料物を配布して水分補給にも気を付けて実施しました。しかしながらコロナ禍のもと、9月の段階でも一部の留学生は未渡日で、またインターンシップの関係で実習に参加できない学生も出てしまいました。そうした学生を対象として、年が明けた1月から3月に2回目の実習をコース別に実施して頂いたことで、最終的には49名の履修者のうち80%以上の学生が全コースに参加して合格点を得ることができました。

Report on the Internship Program

(March, 2021)

By Hirohisa Takano, Professor, GSGES

The internship program in 2020 was unusually scheduled due to the COVID-19 pandemic. Thirty-five students conducted domestic internship programs for a short or long period, whereas only five students went abroad. Internships at Kyoto University and remote placements (online) were also accepted.

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年にない対応を求められました。具体的には、研修の実施について、下記のとおり対応することとしました。

2020年度インターン研修に係る新型コロナウイルス感染症影響拡大に伴う対応について。1. 研修先を国内大学（京大、学内も含む）やその関連機関も可としました。2. 長期インターン、短期インターン（+修士論文準備研究）のどちらも選択可とし、リモートでのインターンも可としました。3. 2019年度入学でインターン未実施の学生についても、2020年度の方針に則ることとした。また、次年度（2021年度）への実施延期の希望がある場合は考慮することとしました。

実際、計画当初は海外研修の予定であったが、渡航レベルや研修先の状況などが不確定であったため、国内研修への変更や、次年度へ実施を見送るケースも見受けられました。また、国内における研修についても、例年より遅い研修実施となったことも見受けられました。

また、国内研修の実施にあたっては、「インターン研修における新型コロナウイルス感染症予防心得」を作成し、研修機関の研修指導責任者、地球環境学舎指導教員、研修学生の3者が心得に合意のうえ、研修を実施することとしました。

また、現場での研修とオンライン研修を織り交ぜて実施するなど、感染防止対策を講じつつ、研修を行ったケースもみられました。実施件数については、2019年度は延べ66件の研修実施のうち、32件が海外で実施されたが、2020年度に関しては、国内35件（うち、短期研修9件、学内研修3件）、海外5件、延べ40件の実施となりました。

ELCAS Report: SDGs learned and deepened online with high school students

(March 22, 2021)

By Misuzu Asari, Associate Professor, GSGES

KU has been conducting the program "ELCAS", which is the hands-on experience study program for high school students. As a part of this program, our EEL lab held online seminars "SDGs / A sustainable lifestyle -Discussion and Research with Manga" (October to December in 2020 for a total of 4 times). It aimed at students acquiring the basic knowledge of SDGs / sustainable living, and taking actions on a daily basis by making use of the Japanese manga "Sazae san".



Online trial of ELCAS to high school students

京都大学が高校生向けの体験型学習講座として実施しているプログラム（ELCAS）の一環として、京都大学地球環境学環境教育論（EEL）浅利美鈴研究室では2020年度、漫画（サザエさん）を出発点に、SDGs・持続可能な暮らしについての基礎的な知見を獲得し、さらに日常生活で行動してもらうことを目的に「SDGs・持続可能な暮らし ～漫画などから探求・考察する～」オンラインで講座（合計4回；2020年10～12月）を行いました。

全国から集まった高校生30名は、古いサザエさんの漫画に時代の流れを感じつつ、現在の暮らしやSDGsと関連付けながら、自分なりに考察を深め、和気あいあいとしたグループ討議が行われました。最終回では「銭湯でSDGs」「プラスチック問題とSDGs」「食品ロス問題とSDGs」など様々なテーマで発表が行われました。

参加した高校生からは「SDGsと様々な問題と結び付け多方面から解決策を考えるこ

とができる」「今後も自分でやりたい学問とSDGsを繋げて考えていきたい」といった声が多かったです。

なお、本学学生団体エコ〜るど京大が実施した『今日も明日もSDGs第二弾』で、高校生とは思えない発表の様子を見ることができますので、是非アクセスしてみてください。

https://www.youtube.com/channel/UCIlgNiTfcQw1IZO8R0Z7_dXg



Online trial of ELCAS to high school students

The 39th Global Environmental Forum: Green infrastructure and living landscape of Kyoto's waterscape

(May 29, 2021)

By Katsue Fukamachii, Associate Professor, GSGES

On May 29, 2021, GSGES hosted the 39th Global Environmental Forum entitled “Green infrastructure and living landscape of Kyoto's waterscape”. We discussed how to apply the concept of "Green Infrastructure" (GI) to the development and management of waterscape areas in the historical city of Kyoto, and how this could lead to the inheritance and creation of a "living landscape".

2021年5月29日、第39回地球環境フォーラム『京都の水辺のグリーンインフラと生きた景観』をオンラインにて開催しました。フォーラムへの参加人数は189名でした。今回は、歴史都市・京都の水辺の整備やマネジメントに自然環境の持つ多様な機能を賢く利用する「グリーンインフラ」(GI)の考え方をどのように適用し、「生きた景観」の継承、創造につなげていけるのか、その道筋について議論しました。



Online presentation at Global Environmental Forum

島谷幸宏・九州大学名誉教授は、「水辺のグリーンインフラと伝統知」と題して、井堰・海岸林・水害防備林・霞堤などを紹介しながら、伝統的な治水システムの重要性を提示しました。山口敬太・京都大学工学研究科准教授は、「京都の水辺と景観デザイン」をテーマに、京都の庭園などに水をうまく配置することで人と水辺との関わりが深まり、結果として現在の美しい景観が形成されてきたことを紹介しました。

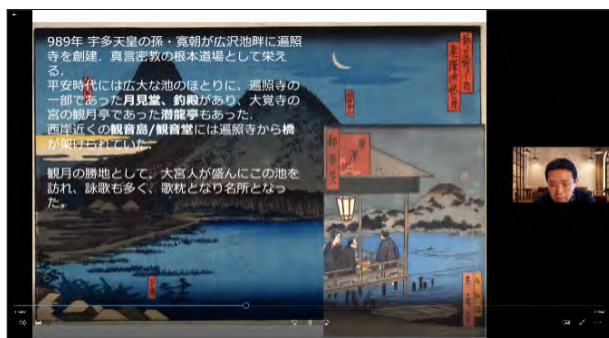
早田一郎・嵐山保勝会副会長は、「嵐山の生きた景観を支える地元の取り組み」として、嵐山の景観に関わる地元の様々な取り組みや行政との相互理解、合意形成を進める上で重要な観点などお話ししました。司会は伊藤峻一郎・京都大学助教、総合討論のコーディネーターは深町加津枝・京都大学准教授でした。

参加者からは、「3つの演題すべてが大変興味深かったです。島谷先生のお話にあった「斜め堰」、「桂垣」などの昔の治水の在り方、山口先生の水と文化の関係、早田さんの嵐山の風景を維持していく活動など、フォーラムの構成が水との付き合い方の今昔とこれからの課題へと考えをつなげてくださる工夫をいただいていたように感じました。「GIを研究されている先生方と、地域で一市民として活動

されている方の両方の立場からのお話を聞くことができ、最新の知見と現状を知ることができた点が良かったです。事例紹介も多く、GIの概念をより詳細に理解する助けになりました。」などの感想が寄せられました。



Online presentation at Global Environmental Forum



Online presentation at Global Environmental Forum



Online presentation at Global Environmental Forum

The 40th Global Environmental Forum: Discussing the Nature of Grassroots International Cooperation - Examples from Africa and the Pacific

(November 21, 2021)

By Misuzu Asari, Associate Professor, GSGES

On Nov 21, 2021, GSGES hosted the 40th Global Environment Forum online as a Zoom webinar. A total of 76 people participated in the event. Three speakers introduced examples of JICA grassroots projects that are currently gathering attention. Research outcomes, as well as future initiatives to solve environmental problems, were discussed and questions from the audience addressed.

地球環境学堂は、2021年11月21日(日)に、第40回京都大学地球環境フォーラム「草

の根の国際連携の在り方を語り合う～アフリカと大洋州の現場より～」を、Zoom ウェビナーを用いてのオンラインにて開催しました。参加者は約100名でした。地球環境問題の解決に向け、これまで様々な国際支援、連携が進められ、研究や社会貢献分野においても、多くの知見や成果が得られてきました。しかしながら、現場ではコロナ禍の社会変容や、世界のダイナミックな動きの中で、新たな視点も求められ議論や悩みも尽きません。

本フォーラムでは、アフリカと大洋州という遠く離れた地域の事例を通じて、草の根の国際連携の在り方について、2名の研究者、1名の国際協力実務者が自身の研究、活動と共に講演・議論を行いました。

京都大学防災研究所の西嶋一欽さんからはバヌアツでのプロジェクトでの現地での建築物の強さの秘密、在来知を紹介していただくと共に、今後、起こりうる災害対策として科学知の共創による在来建築の高度化の研究についてご講演いただきました。京都大学大学院地球環境学堂の真常仁志さんには、アフリカ・マラウイにおける、衛生上の問題点とその解決策としてのエコサニテーショントイレのプロジェクトを紹介していただくと共に、コロナ渦における今後のプロジェクトの展望、近年の研究についてご講演いただきました。NPO 法人 Colorbath の吉川雄介さんには、アフリカでの太陽光発電の活動を紹介していただくと共に、今後の活動展望をご講演いただきました。総合討論では参加者から募った質問への回答をもとに、国際協力において、外部の人間が伝統にどこまで踏み込むのか、在

来知をどこまで生かすべきかなど、問題点解決にむけた方向性・方策について活発な議論が行われました。

草の根の国際連携の在り方を語り合う
～アフリカと大洋州の現場より～

主催：京都大学大学院地球環境学堂

地球環境問題の解決に向け、様々な国際連携が実施されてきました。研究や社会実践分野においても、多くの成果が得られてきたものの、現場では課題や悩みも残ります。コロナ禍の社会実情や、世界のダイナミクスを踏まえて、新たな視点も求められています。今回は、アフリカと大洋州という遠く離れた地域の事例を通じて、草の根の国際連携の在り方について議論したいと願います。

プログラム

開会の挨拶 総合司会：竹前由美子(京都大学大学院地球環境学堂・助教)

- ◆ 14:00～14:15 舟川善也(京都大学大学院地球環境学堂・教授)
- ◆ 14:15～14:45 在来知と科学知の共創による在来建築の高度化 ～バヌアツでのプロジェクトを通じて～ 西嶋一欽(京都大学防災研究所・准教授)
- ◆ 14:45～15:15 アフリカで地球環境を学ぶ 真常仁志(京都大学大学院地球環境学堂・准教授)
- ◆ 15:15～15:45 太陽の力で救う、アフリカの命と地球 吉川雄介(NPO法人Colorbath・代表理事)
- ◆ 15:45～15:55 休憩

総合討論 コーディネーター：遠利美穂(京都大学大学院地球環境学堂・准教授)

- ◆ 15:55～16:55

閉会の挨拶

- ◆ 16:55～17:00

2021年11月21日(日) 14:00～17:00
Zoomウェビナー(オンライン開催)
参加無料、申込締切：11/18(木)

Invitation to 40th Global Environmental ForumForum

Awards Given to GSGES Members

Thirteen members of GSGES have received rewards between Oct 2020 and Nov 2021:

Nov 19, 2020: Tomohiro Tanaka (Assistant Professor, GSGES); Reiwa 2nd Year Hydraulic Engineering Paper Encouragement Award.

Dec. 11, 2020: Kiyoshi Yukioka (Post-doctoral Fellow, GSGES); The excellent poster award, and Mayu Tsurumi (Master Student, GSGES); the Environmental Technology / Project Award. At the 57th Environmental Engineering Research Forum.

Feb 4, 2021: Hirohisa Takano (Professor, GSGES); The Toyama Tsubakiyoshi Memorial 7th Food and Environment Science Award.

Mar 11, 2021: Mitsuhiko Aoyama (Doctoral Student, GSGES); The 2020 Encouragement Award at the International Society for Public Economics.

Mar 29, 2021: Akihisa Mori (Associate Professor, GSGES); The Best Reviewer Award from an English academic journal.

Apr 5, 2021: Mami Tani and Hiroki Kataoka (Master Students, GSGES); The 55th Japan Society on Water Environment / Annual Meeting Excellent Presentation Award (Kurita Award).

Apr 12, 2021: Yu Tokunaga (Associate Professor, GSGES); W. Turrentine Jackson (Article) Prize of the Pacific Coast Branch, American Historical Association.

May 11, 2021: Mayu Narita (Master Program Graduate, GSGES); 2020 Best paper Award from The City Planning Institute of Japan.

May 28, 2021: Yu Tokunaga (Associate Professor, GSGES); The Louis Knott Koontz Memorial Award of the Pacific Coast Branch, American Historical Association

Jun 10, 2021: Misuzu Asari (Associate Professor, GSGES); Waste Resource Recycling Society / Chairman's Commendation

Jun 23, 2021: Satoshi Hoshino (Professor, GSGES); Kyoto Prefectural Administrative Committee / 2 Achievement commendation

Jul 2, 2021: Tsai Sung Lung (Doctoral Student, GSGES); Excellent Student Paper Award at 2020 Disaster Management Conference of Taiwan

Jul 16, 2021: Takeshi Katsumi (Professor, GSGES); 2020 Annual Japanese Geotechnical Society Paper Award

Aug 20, 2021: Yu Tokunaga (Associate Professor, GSGES); Pacific Coast Branch of American Historical Association Congratulates First Double Award Winner

Aug 25, 2021: Hikari Naito (Master Student, GSGES); Research and Practice Encouragement Award from Japan Society for Environmental Education

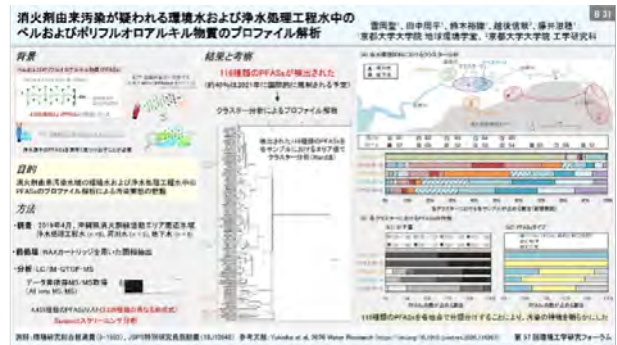
Sep 13, 2021: Tsai Sung Lung (Doctoral Student, GSGES); Best Paper Presentation Award at International conference (ICAPPS 2021)

Oct 15, 2021: Tomohiro Tanaka (Assistant Professor, GSGES); Hydrology and Water Resources Society / Japan Society for Hydrological Sciences 2021 Research Presentation Award

1. 2020年11月19日 田中智大 (地球環境学
堂助教) : 令和2年度水工学論文奨励賞

2. 2020年12月11日 雪岡聖 (地球環境学
堂研究員) : 第57回環境工学研究フォーラム
優秀ポスター賞、対象発表「消火剤由来汚染
が疑われる環境水および浄水処理工程水中の
ペルおよびポリフルオロアルキル物質のプロ

ファイル解析」。

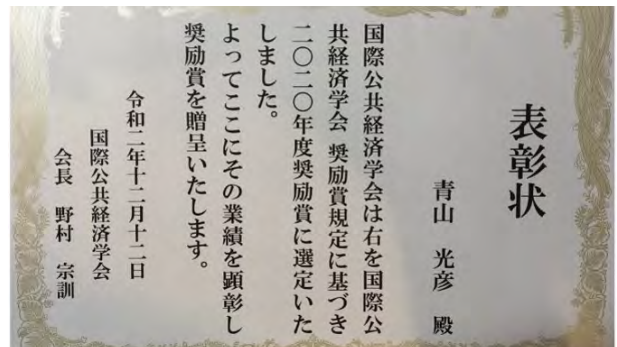


2. Poster Award Winning Poster

3. 2020年12月11日 鶴見茉由 (地球環境学
舎修士課程) : 同上環境技術・プロジェクト賞、
対象発表「ザンビア都市スラムにおける 糞便
汚染・曝露の可視化アクションリサーチ」

4. 2021年2月4日 高野裕久 (地球環境学
堂教授) : 遠山椿吉記念 第7回 食と環境の科学
賞、対象題目「大気汚染物質、環境化学物質
によるアレルギー悪化メカニズムの解明と悪
化影響スクリーニング法の開発」

5. 2021年3月11日 青山光彦 (地球環境学
舎博士課程) : 国際公共経済学会 2020年度奨
励賞、対象題目「自治体主導の地域エネルギー
事業の事業化要因分析及び展開・普及に向け
た政策研究」



5. Certificate of commendation

6. 2021年3月29日 森晶寿 (地球環境学
堂准教授) : 英文学術誌最優秀査読者賞



6. Certificate of commendation

7. 2021年4月5日 谷麻未・片岡弘貴（地球環境学舎修士課程）：第55回日本水環境学会・年会優秀発表賞（クリタ賞）、対象発表：森谷麻未「晴天時の琵琶湖流入河川における粒径10 μm以上のマイクロプラスチックの負荷量の推定」、片岡弘貴「路上におけるレジ袋およびストローからのマイクロプラスチックの生成挙動と劣化指標の検討」

8. 2021年4月12日 徳永悠（地球環境学舎准教授）：W. Turrentine Jackson (Article) Prize Pacific Historical Review (University of California Press), 対象論文「Yu Tokunaga. “Japanese Farmers, Mexican Workers, and the Making of Transpacific Borderlands.” Pacific Historical Review 89, no.2 (Spring, 2020): 165–197.」



9. Paper Award

9. 2021年5月11日 成田茉優（地球環境学舎修了生）：日本都市計画学会 2020年度年間優秀論文賞、対象論文「地域組織による入会地管理の歴史の変遷 滋賀県大津市南小松の観光開発と景観保全を事例として」

10. 2021年5月28日 徳永悠（地球環境学舎准教授）：アメリカ歴史学会太平洋岸支部 (The Pacific Coast Branch of the American Historical Association) の学術雑誌 Pacific Historical Review (University of California Press) ・年間最優秀論文賞 Louis Knott Koontz Memorial Award, 対象論文は8に同じ

11. 2021年6月10日 浅利美鈴（地球環境学舎准教授）：廃棄物資源循環学会会長表彰

12. 2021年6月23日 星野敏（地球環境学舎教授）：京都府行政委員会等委員功勞表彰

13. 2021年7月2日 蔡松倫（地球環境学舎博士課程）2020年度 Disaster Management Conference of Taiwan (Taipei, Taiwan.) 優秀学生論文賞、対象論文「Post-disaster vulnerability, social capital and the recovery of different ethnic groups」

14. 2021年7月16日 勝見武（地球環境学舎教授）：令和2年度地盤工学会論文賞、対象論文「土壌汚染対策法に基づく調査結果からみた西大阪地域における自然由来重金属等の土壌溶出量の特徴」

15. 2021年8月20日 徳永悠（地球環境学舎准教授）：アメリカ歴史学会太平洋岸支部表彰

16. 2021年8月25日 内藤光里（地球環境学舎修士課程）：日本環境教育学会 研究・実践奨励賞、対象発表「若者の集団での環境行動意図の規定因とその背景にある価値観・意識に関する研究」

17. 2021年9月13日 蔡松倫（地球環境学舎博士課程）：国際コンファレンス (ICAPPS 2021) 論文発表賞、対象論文「Lesson Learned in Post-Disaster Reconstruction Project - Five Case Studies of Indigenous Settlements After The 2009 Typhoon Morakot in Taiwan」



17. Certificate of commendation

<p>京都大学大学院地球環境学舎・地球環境学舎・三才学林 広報誌</p> <p>SANSAI 第30号 Newsletter</p> <p>2022年（令和4年）3月1日発行</p>	<p>編集●京都大学大学院地球環境学舎三才学林 広報部会 SANSAI Newsletter 担当 渡邊 哲弘・BAARS, Roger C.</p> <p>発行●京都大学大学院地球環境学舎三才学林 TEL: +81-75-753-5630</p>	<p>SANSAI Newsletter is accessible on GSGES HP. http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/activities/publicity/sansai-newsletter</p>
--	--	---